

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館(1階)		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2		
自己評価作成日	2025年11月10日	評価結果市町村受理日	2026年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0170502298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、安全で安心した暮らしが出来るように、ユニット同士での交流や職員同士の情報の共有に努めています。医療法人が母体となっているので、協力医療機関と密に連携を図り、報告や相談することで入居者様の健康管理や体調変化への対応にも十分注意を払っています。新年会・お花見・夏祭り・紅葉見学・クリスマス会などの毎月の季節に応じた行事を開催しております。更に季節行事の他に、毎月誕生会を含めた行事を必ず行っています。職員が知恵と工夫を凝らし、入居者様の笑顔に応えるべく様々な企画で取り組んでいます。また毎日の生活の中でも、入居者様個々のニーズに応えられるように様々なレク用具を準備しており、その日の気分や状況に応じて自ら選択して取り組める環境作りに努めております。あくまでも、個人の意思を尊重し、集団レク(カラオケ大会・かるた大会など)も時々行ってはいますが、自由参加を基本として楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。バス停から1分の位置にあり、近くに遊歩道や小学校があって良好な生活環境である。建物は家庭的な造りで、広い玄関と昇降しやすい階段、エレベーター、家族用の個室などがあり、設備面が整っている。共用空間には手作りの装飾や利用者の写真があり、電子ピアノや遊び道具など活動意欲を高めるものも配置されている。利用者は食事前に歌を歌ったり、月1回カラオケを楽しむなど、明るく賑やかに過ごしている。職員と家族とのコミュニケーションも良好で、信頼関係が構築されている。行政との関係づくりでは、区の管理者連絡会に参加したり地域の認知症サポーター養成講座に協力している。医療面では、母体である医療機関との連携のもと受診支援の体制が整い、利用者や家族の安心につながっている。災害対策の面では、年2回、昼夜および地震や火災を想定した避難訓練を実施し、昨年は消防立ち会いも得ている。職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声かけや個人情報の管理を行っている。入浴支援の面では、広く明るい浴室にリフト付きの浴槽が設置され、利用者は午後を中心に週2回の入浴を楽しんでいる。整った環境と行き届いた支援のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げユニット内各所に掲示し、それを見る事で各職員の意識付けを行い、それを共有して実践につなげている。	今年の1月に運営理念を改定した。もともとの理念に地域との関わりを示しており、職員は地域密着型サービスの意義を当然のこととして意識し実践している。理念を玄関やスタッフルームに掲示し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、外出・外食などの行事を少しづつ企画実施し、外部の方との交流機会を設ける事が出来るように支援していきます。	感染症対策を徹底するため、現在は地域の行事に参加していない。今後は感染症の流行状況を見ながら参加を再開したいと考えている。一方、地域の中華レストランやアイスクリーム店などには、感染症に注意しながら出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで培ってきた認知症に関する情報やその支援に関する方法などについて、運営推進会議などで、現況を踏まえながら地域の皆様に情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各フロア職員も不定期で参加し、町内会・家族などと意見交換や情報発信を行っている。また、参加できない場合は、館長からその都度情報をカンファ等で伝えるようにしている。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会区長、町内会役員、家族代表の参加を得て、年間行事や感染症対策、事業所の課題、運営指導、職員研修などを取り上げ話し合っている。議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	館長・管理者が行政との対応を行っており、直接職員が関わることがありませんが、時にそのサポートを行っております。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報を得ている。事業所での困難事例について市役所担当者に意見をもらっている。管理者は区の管理者連絡会に参加し、行政とも関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ企業内で、四半期ごとに各グループホームの代表者が集い、「身体拘束適正化委員会」を開催しており、その結果を文書化した物を各ユニットの全職員で回覧する事にしている。更に、本部研修事業部開催の研修会に経験値別に職員が定期的に参加し研修を受けている。	身体拘束を行っておらず、身体拘束に関する年4回の委員会と年2回の研修を行っている。研修では禁止の対象となる具体的な行為を確認している。玄関は日中は施錠せず自由に入出りすることができる。出入りがある場合は内ドアの鈴が鳴り、分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	本部主催の「虐待防止委員会」に館長・管理者が参加し、その委員会の資料を全職員に回覧し研鑽を積んでいる。また、ユニットカンファでも日常の入居者への関わり方について確認と検討を重ねています。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	館長が中心となり、入居者の中で身寄りがない方についてすべての方に成年後見人を立てている。後見人とは定期的に連絡をとりあい、近況報告したり、面会の機会を設けるなど家族同様の対応をして、入居者の生活保全に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	館長・管理者が業務を行っており、直接職員が関わることがありませんが、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時あるいは入居後の生活の中で、本人から意見や要望などを聞き取ることを心掛けている。また、館長や管理者は、家族様から入居前後や面会時・あるいは電話連絡の際に、意見や要望を伺う事を心掛けている。	家族の来訪が比較的多く、来訪時や電話で話した際に意見を聞き個人ごとに記録している。また、意見や要望への対応をケア会議で話し合っている。毎月、利用者の写真を載せた「優YOU通信」を家族に送付している。通信には個々人の様子を伝えるコーナーを設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のユニット会議、又は、不定期に行われる館長や管理者と職員の面談により意見交換を行っており、その内容を出来るだけ運営に反映できるよう努力しています。	月1回、ユニットごとの会議を開催し、職員同士活発に意見交換している。管理者と職員は年2回、個別面談を行っている。職員は備品発注や食材管理、病院との情報交換など担当を受け持ったり、行事を交替で担当して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の実績等を把握し、年度末に行われる契約更新の面談時にも意見・要望など交換する事により環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内外研修を受ける機会を設けており、研修後に全職員に資料の回覧や伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度から、区内の管理者連絡会が復活開催されたので、研修会や交流会を通じて質の向上を行っていくように検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	館長・管理者とユニットリーダー以上の対応になりますが、事前にご家族様、本人様と入居前面談を実施し、要望、希望、不安点等の聞き取り、ケアプラン等に反映し支援を行う取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、家族等が困っていること要望、希望、不安点等の聞き取り、関係づくりの構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、本人と家族等が必要とする支援の見極め、他のサービスも含めてケアプランを作成し、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者として、また尊厳を重視しての関わりを持ち、支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と定期的に連絡を取り、情報共有に努めながら面会の機会を多くとれるよう支援しながら双方に寄り添う努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様又は交流先の方に人間関係を維持しようとする意志がある場合は、可能な限り支援を行っている。	3名ほどの利用者に友人や知人が来訪している。知人から手紙やプレゼントが届く利用者もおり、返事の作成を職員が手伝っている。知人に電話する場合も支援している。家族と一緒に墓参りや外出に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様同士の人間関係に注意しつつ、良好な関係が築けるよう様々な面で支援できるよう努めている。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に連絡があり、行政的な手続き相談などが稀にあるが、可能な範囲で協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望や意向に耳を傾け、可能な範囲で実現できるよう努めている。	半分ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情やしぐさから把握している。個々のフェイスシートを作成しているが、生活歴や趣味・嗜好の記載は少ない。	利用者の生活歴や趣味・嗜好を把握・蓄積し、フェイスシートの該当欄に記載し、共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話やご家族様からの聞き取りから生活歴などを確認し、サービスに生かしている。又、定期的なカンファレンスの中で、ケアの達成状況などの振り返りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・排泄記録・申送り表などの記録を中心として、入居者の状況把握に努めており、状況変化については、ケアプランにも反映するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は必ず全職員からモニタリング意見を聞きとり、出来上がった介護計画をご家族様に口頭で説明し、ご家族様からの要望等が有ればそれを反映させた上で介護計画を立てている。	介護計画を6か月ごと、変化があればより短い期間で更新している。更新時はモニタリング表をもとに意見交換し、次の目標を定めている。タブレット端末で日々の記録を作成しており、計画目標に関する内容をケース欄に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申送り表・排泄表を個別に毎日記録し、その情報を共有し、介護実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な対応は実施出来ており、柔軟な対応に関しては日々の申し送りやカンファレンス時に、業務の見直しについて職員個々の意見を出し合い、状況に応じた支援の内容を決定している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は新型コロナウイルス対策として地域ボランティア等との接触はないが、安全で豊かな暮らしを楽しめるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他、本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう支援しています。	協力医療機関による月2回の往診があり、その他の通院も概ね事業所で支援している。受診内容を個人ごと端末に記録し共有するとともに、必要に応じて家族に報告している。	

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院による週一回の看護師訪問、二週間に一回の医師訪問で変化などを伝え相談し適切な医療が受けられるように支援している。また、日々の生活の中で体調に変化があった場合には、すぐに看護部に相談し、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院との連携は良好であり、スムーズな対応ができており、情報交換や相談に努めている。また、提携病院以外での入院時は、その病院の連携室と情報交換をしながら対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の医療体制指針を取り交わしております。実際としては、可能な限り入居様や家族様から聴取した意向を尊重して医療機関と連携し、終末期の支援を行っております。	利用開始時に「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」を説明し、署名捺印を得ている。現状、事業所での看取りは難しく、その旨を説明している。重度化した場合は医療機関や家族と相談の上、入院治療となる場合が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを準備し、各職員が熟読しております。救命研修等を実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時用緊急マニュアルを作成している。定期的な避難訓練を実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。	年2回、昼夜および地震や火災を想定した避難訓練を実施している。昨年は消防立ち会いで行い、合わせて救急救命訓練も受講した。感染症が落ち着いた地域住民の参加を依頼する予定である。災害時に必要な備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけについて、日頃から職員同士で注意しあう体制としている。プライバシーの確保についても、本人らしさを維持できるよう支援している。	法人主催の接遇研修を年に1回受けている。声かけ等気になる点がある場合は、その都度注意している。申し送りは部屋番号を使用し、利用者の呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定出来るような環境作りを職員全員が心掛けており、入居者が何時でも相談できる雰囲気作りも行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添い日によって、個々の趣味活動やアクティビティなど自由選択にして過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には、その人らしさを重視し、能力に応じた支援を行っている。また、定期的な訪問美容室を利用し、本人・家族の希望に合わせた支援を行っている。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、食材の下準備や片付け、おやつ作りに参加し食を楽しめるよう支援している。	配食業者の献立の食材が届き、職員が調理している。季節の行事食のほかに、楽しみごととして毎月食事パーティーを開催し、ピザやバーベキュー、お好み焼きなどを楽しんでいる。外食の企画も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、食べる量・水分量は職員がチェックし、少ない場合は声掛けし摂取できるよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の能力、状態に合った口腔ケアを見守り又は一部介助にて実施している。また、訪問歯科にて口腔ケアも希望により行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立している利用者も排泄記録をタブレット端末で記録し、習慣や間隔を把握している。日中は座位が保てる方はトイレでの排泄を基本とし、事前誘導の声かけも羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供の機会を増やし、また医師に排泄状態を相談し、処方して頂いた下剤等を指示通り適用し、排泄コントロールを行う事によって便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の意向やその日の体調を考慮しながら、時間や日程調整を行いご本人が表情良く、楽しんで入浴できるよう支援しています。	ひとり週2回の入浴支援を日曜日を除き行っている。午後を中心に1日3名の支援を行っている。座位が保てる方は電動リフトも使用し、浴槽に浸かることができている。難しい利用者はシャワー浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じ休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイル管理しており、その内容について全職員が把握できるようにしている。服薬に関しては、セットの段階から与薬まで複数の職員が関わる体制作りをして、誤薬防止につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、役割や楽しみごと、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度から、近場への散歩や花見など外出の支援を行っている。また家族同伴の外出も前向きに了承した上で支援している。	季節の良い時期は車いすを利用する方も事業所周辺を散歩し、冬季も利用者の希望にそって散歩に出かけている。隣接する遊歩道の桜並木ではテーブルを出して花見をしながら食事をしたり、夏にはドライブも兼ねてアイスクリームを食べに出かけている。また、家族の協力も得て外食に出かける方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が金銭管理をしている入居者様は家族了解のもと現在在籍しておりません。買物希望がある場合は、職員が代行して行っており代金は施設の立替えで、後日家族請求としている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やオンライン面会など、ご家族様や入居者様本人の希望に沿った交流方式を用意している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに因んだ飾りを入居者様と一緒に作り、フロアの装飾をして、心穏やかに生活できるよう工夫している。	清潔に保たれた共用空間は、季節の飾りつけを職員と一緒にしている。1階、2階はそれぞれ特徴があり、1階は利用者が好むゲームなどが置かれたコーナーがあり、2階は畳敷きの和風エリアにマッサージチェアが置かれている。思い思いに過ごすことができている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置については、出来る限り気の合った人同志で座れるよう考慮し、定期的にその見直しを行い、過ごしやすい環境を保てるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に個人の家具や寝具、身の回り品は入居前からご利用いただいている品物をそのまま持ち込んでお使いいただいている。	居室入り口には部屋番号と表札が掲げられ自室が分かりやすくなっている。自宅で使用していたベッドや整理棚、家族写真、愛用品、自作の作品などに囲まれ安心して過ごせる場所となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手洗いの場所など案内板を絵柄で分かりやすく示すなど工夫している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館(2階)		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2		
自己評価作成日	2025年11月10日	評価結果市町村受理日	2026年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigyosyoCd=0170502298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、安全で安心した暮らしが出来るように、ユニット同士での交流や職員同士の情報の共有に努めています。医療法人が母体となっているので、協力医療機関と密に連携を図り、報告や相談することで入居者様の健康管理や体調変化への対応にも十分注意を払っています。新年会・お花見・夏祭り・紅葉見学・クリスマス会などの毎月の季節に応じた行事を開催しております。更に季節行事の他に、毎月誕生会を含めた行事を必ず行っています。職員が知恵と工夫を凝らし、入居者様の笑顔に応えるべく様々な企画で取り組んでいます。また毎日の生活の中でも、入居者様個々のニーズに応えられるように様々なレク用具を準備しており、その日の気分や状況に応じて自ら選択して取り組める環境作りに努めております。あくまでも、個人の意思を尊重し、集団レク(カラオケ大会・かるた大会など)も時々行ってはいますが、自由参加を基本として楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げユニット内各所に掲示し、それを見る事で各職員の意識付けを行い、それを共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は、外出・外食などの行事を少しづつ企画実施し、外部の方との交流機会を設ける事が出来るように支援していきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで培ってきた認知症に関する情報やその支援に関する方法などについて、運営推進会議などで、現況を踏まえながら地域の皆様に情報発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各フロア職員も不定期で参加し、町内会・家族などと意見交換や情報発信を行っている。また、参加できない場合は、館長からその都度情報をカンファ等で伝えるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	館長・管理者が行政との対応を行っており、直接職員が関わることはありませんが、時にそのサポートを行っております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ企業内で、四半期ごとに各グループホームの代表者が集い、「身体拘束適正化委員会」を開催しており、その結果を文書化した物を各ユニットの全職員で回覧する事にしている。更に、本部研修事業部開催の研修会に経験値別に職員が参加し研修を受けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の「虐待防止委員会」に館長・管理者が参加し、その委員会の資料を全職員に回覧し研鑽を積んでいる。また、ユニットカンファでも日常の入居者への関わり方について確認と検討を重ねています。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	館長が中心となり、身寄りがない方についてすべての方に成年後見人を立てている。後見人とは定期的に連絡をとりあい、近況報告したり、面会の機会を設けるなど家族同様の対応をして、入居者の生活保全に努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が業務を行っており、直接職員が関わることはありませんが、館長や管理者から入居時前後に十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時あるいは入居後の生活の中で、本人から意見や要望などを聞き取ることを心掛けている。また、館長や管理者は、家族様から入居前後や面会時・あるいは電話連絡の際に、意見や要望を伺う事を心掛けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のユニット会議、又は、不定期に行われる館長や管理者と職員の面談により意見交換を行っており、その内容を出来るだけ運営に反映できるよう努力しています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の実績等を把握し、年度末に行われる契約更新の面談時にも意見・要望など交換する事により環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内外研修を受ける機会を設けており、研修後に全職員に資料の回覧や伝達研修を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度から、区内の管理者連絡会が復活開催されたので、研修会や交流会を通じて質の向上を行っていくように検討している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	館長・管理者とユニットリーダー以上の対応になりますが、事前にご家族様、本人様と入居前面談を実施し、要望、希望、不安点等の聞き取り、ケアプラン等に反映し支援を行う取り組みを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、家族等が困っていること要望、希望、不安点等の聞き取り、関係づくりの構築に努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者とユニットリーダー以上の対応になりますが、事前にご家族様、本人様と入居前面談を実施し、要望、希望、不安点等の聞き取り、吸い上げを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまで入居者様はおお客様という接遇意識を持った上で、生活を共にする者としての関わりを持つようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と定期的に連絡を取り、情報共有に努めながら面会の機会を多くとれるよう支援しながら双方に寄り添う努力をしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様又は交流先の方に人間関係を維持しようとする意志がある場合は、可能な限り支援を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様同士の人間関係に注意しつつ、良好な関係が築けるよう様々な面で支援できるよう努めている。			

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に連絡があり、行政的な手続き相談などが稀にあるが、可能な範囲で協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の言葉や思いに耳を傾け、可能な範囲で実現できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話やご家族様からの聞き取りから生活歴などを確認し、サービスに生かしている。又、定期的カンファレンスを実施し、ケアの達成状況などの振り返りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・排泄記録・送り表などの記録を中心として、入居者様の状況把握に努めており、状況変化については、ケアプランにも反映するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は必ず全職員からモニタリング意見を聞き上げ、出来上がった介護計画を家族に口頭にて説明の上、家族からの要望が有ればそれを反映させた上で介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・送り表・排泄表を個別に毎日記録し、その情報を共有し、介護実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な対応は実施出来ており、柔軟な対応に関しては日々の申し送りやカンファレンス時に、業務の見直しについて職員個々の意見を出し合い、状況に応じた支援の内容を決定している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は新型コロナウイルス対策として地域ボランティア等との接触はないが、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他、本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう支援しています。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での情報共有や、訪診や訪問看護の際に施設と医療機関で情報の共有を綿密に行っており、有事の際にスムーズな対応が行える協力体制を構築出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院との連携は良好であり、スムーズな対応ができており、情報交換や相談に努めている。また、提携病院以外での入院時は、その病院の連携室と情報交換をしながら対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の医療体制指針を取り交わしております。実際としては、可能な限り入居様や家族様から聴取した意向を尊重して医療機関と連携し、終末期の支援を行っております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを準備し、各職員が熟読しております。又、救命研修等も実施実績があり、緊急時に対応できるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時用緊急マニュアルを作成しております。又、避難訓練も定期的実施しており、緊急時に対応できるよう心掛けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声かけについて、日頃から職員同士で注意しあう体制としている。プライバシーの確保についても、本人らしさを維持できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定出来るような環境作りを職員全員が心掛けており、入居者が何時でも相談できる雰囲気作りも行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添い、日によって個々の趣味活動やアクティビティなど自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には、その人らしさを重視し、能力に応じた支援を行っている。また、定期的な訪問美容室を利用し、本人・家族の希望に合わせた支援を行っている。		

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食器拭きや簡単な調理補助をお手伝いして頂き、利用者様と職員が協力できる環境を作っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、食べる量・水分量は職員がチェックし、少ない場合は声掛けし摂取できるよう促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の能力、状態に合った口腔ケアを見守り又は一部介助にて実施している。また、訪問歯科にて口腔ケアも希望により行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄の習慣、間隔などを確認し、適切な誘導、声掛けを行う事によって、トイレ失敗の回数を可能な限り減らすよう支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分提供の機会を増やし、また医師に排泄状態を相談し、処方して頂いた下剤等を指示通り適用し、排泄コントロールを行う事によって便秘の予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の意向やその日の体調を考慮しながら、時間や日程調整を行いご本人が表情良く、楽しんで入浴できるよう支援しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床に関しては、入居者様の意思や体調を考慮しながら支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイル管理しており、その内容について全職員が把握できるようにしている。服薬に関しては、セットの段階から与薬まで複数の職員が関わる体制作りをして、誤薬防止につなげている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のアクティビティや月イベント、季節イベントなどを提供し、一日一日が楽しく充実して過ごせるよう心掛けている。			

グループホーム厚宮館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度から、近場への散歩や花見など外出の支援を行っている。また家族同伴の外出も前向きに了承した上で支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が金銭管理をしている入居者様は家族了解のもと現在在籍しておりません。買物希望がある場合は、職員が代行して行っており代金は施設の立替えて、後日家族請求としている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やオンライン面会など、ご家族様や入居者様本人の希望に沿った交流方式を用意している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース全般において、余計な色彩や音、光などで入居者様が混乱してる様子は見られません。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席の配置については、出来る限り気の合った人同志で座れるよう考慮し、定期的にその見直しを行い、過ごしやすい環境を保てるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に個人の家具や寝具、身の回り品は入居前からご利用いただいている品物をそのまま持ち込んでお使いいただいている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板を絵柄にし、主要動線部分には手摺を設置し、安全にかつ分かりやすい構造にしている。			